「第50回鳥取市民美術展」開催！

池本実行委員長、市長と語る。

8月31日（水）、鳥取民藝美術館で、第50回鳥取市民美術展実行委員長の写真家・池本喜巳さんと竹内市長が、本市の文化振興の可能性や、10月16日から23日まで県立博物館で開催される鳥取市民美術展の概要について、対談を行いました。

問い合わせ先　本庁舎文化芸術推進課　TEL 0857-20-3226

地域における文化の果たす役割は

民間と行政の温度差

市長　池本さんは、第50回の市民美術展の実行委員長をお務めになっていらっしゃいます。まず地域と文化について、伺っていきたいと思います。

池本　鳥取生まれの鳥取育ちで、鳥取にカメラを45年も向けています。最近、非常に気になるのは「文化のとらえ方」です。全国的な傾向ですが、文化に経済が伴い、数字で表し、評価しようという風潮が強過ぎると思っています。

民間の我々が考えている文化と、行政の考える文化との間に、温度差があるような気がします。これからの時代は、その差をどうやって縮めていくかが課題だと思います。

市長　文化は感じるものであったり、文化が一つの芸術となって感動を与えたりということは事実ですから、文化を型にはめて、あるいは数字で計算していくような、そういうことは避けなければなりませんね。

イベントと文化の違い

池本　僕はイベントと文化は違うと思っています。ところが、非常に多くの地域でイベントが文化だと思っているところがあります。個人的には、国民文化祭というのは国民イベント祭であって、あれほど文化とほど遠い文化祭はないと思っています。文化とは、もっと普遍的・形而上学的なものが含まれているととらえています。

市長　本市も文化芸術振興条例をつく

第50回鳥取市民美術展

秋、芸術を楽しむ…。

◆会期　10月16日（日）～23日（日）　会期中無休
　　9：00～17：00　※土、日曜は19：00まで
◆会場　鳥取県立博物館（東町2-124）
◆部門　日本画／洋画／書道／デザイン／写真／彫刻／工芸／版画
◆特別展示　韓国清州市招待作品展／市展審査員特別回顧展
◆ギャラリートーク　10月16日（日）表彰式終了後（おおむね13：30～）
　　10月22日（土）13：00～
◆問い合わせ先　本庁舎文化芸術推進課　TEL 0857-20-3226

りましたが、文化の振興が地域の活性化や魅力アップにつながると思っています。ハード面の一例としては、市民会館の耐震化とあわせて、座席など、利用しやすい形に変えました。また、その器の中で行われる芸術的な営み、文化活動をどんどん増やしていきたいなと思っています。

池本　一つお願いしたいのは、グループを応援しても、文化を育てることにつながらないので、ターゲットを個人、特に若い人たちに絞ってほしいですね。そうすると、ピューッと伸びた人に文化が集まり、それが波及すると私はとらえています。

半世紀にわたる文化活動「鳥取市民美術展」

記念誌とランダム展示

市長　鳥取市民美術展が第50回ということで、半世紀にわたる活動、いわば大きな節目です。今回の特徴はどのような点がありますか。

池本　まず、50回記念誌を作ります。100回記念のときに、50回の記念誌がたたき台になって100回記念誌が作られると思います。そのときに「よくこんなの50回に作ったね」と言われるものを作りたいという希望があります。その中に、若い人の意見を入れたいというのが僕の念願であり、若いアーティストとの対談を載せています。

　展示はおそらく、全国の市美展でも初めてだと思いますが、いろいろな部門の作品をランダムに展示します。

市長　部門ごとの縦割りではなくて、ランダムに展示するということですね。私も聞いたとき驚きましたが、そういったことができると、見ている人も楽しく、コントラストがあり、何か類似性もそこに見出したり、いろいろと楽しめそうですね。

若い人の参加を

池本　60点程、姉妹都市の韓国清州市からも作品が来ます。

市長　今回の市民美術展も、見方によれば一つのイベントではありますが、鳥取市の市民美術展の新たな流れをつくるという取り組みに大きく期待しています。清州市からの参加という国際色もあり、非常にタイムリーですね。

池本　第50回記念賞を設け、各部門で審査員以外のすべての出展者の中での最高賞を1点選び、賞金も出します。また、若い人に参加していただき、奨励する意味で40歳以下対象の新人賞を設け、こちらにも賞金を出すよう企画しました。

市長　新しい試み、これまでの回顧の部分、そして記念誌を作って集大成を図られるというようなことなど、豊かな内容に胸がわくわくしてきます。

　鳥取の文化とは何かということを時々問われることがありますが、この地に本当に根ざした、長い歴史の中に培われたものだと思います。池本さんをはじめ、多くのみなさんのご活躍が、鳥取市に文化の大きな花を開かせることを期待しています。

※対談の内容は、10月4日～8日午後2時から、いなばぴょんぴょんネットで放送します。

■池本喜巳氏：写真家

鳥取市出身。昭和62年から鳥取市民美術展の審査員。植田正治氏の助手として世界中を駆け巡るかたわら、「ふるさとを記録する」をライフテーマとし、代表作に『三徳山三仏寺』、『鳥取百景』、『因伯の肖像』、『近世店屋考』などがある。「シャッターを押せば写る時代。目の前にある被写体が重要なのではなく、むしろカメラの後ろ側にいる作者が何を考え、どう被写体と接しているのか大切である。」と語り、写真と表現の魅力を語る審美眼は人生訓にも通じる。